

2026

5 MAY

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 87

2▶ 診療部長就任のご挨拶

3▶ 立川病院との医療連携について

6▶ 新任ドクター紹介

9▶ ホームページに専門医検索機能「専門医ファイル」を追加しました

10▶ 2025年度立川病院市民公開講座

11▶ 立川消防署との救急症例検討会を開催しました

11▶ 第2回立川市訪問看護ステーション交流会を開催しました

立川病院 だより



第26回

立川病院地域医療連携懇話会

日時 2026年11月17日(火) 19時より

場所 ホテルエミシア東京立川

診療部長就任のご挨拶



診療部長
明瀬 祐史

陽春の候、連携医の先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当院の診療に対し、多大なるご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私儀、この度、令和8年4月1日付をもちまして、立川病院 診療部長を拝命いたしました。

私は2001年に慶應義塾大学医学部を卒業し、2009年より当院にて泌尿器科診療に従事してまいりました。2022年からはロボット支援手術のリーダーとして、また2023年からは泌尿器科部長として、常に最新の知見と技術を臨床現場に還元すべく邁進してまいりました。特にロボット支援手術においては、低侵襲で精度の高い治療を提供することで、患者様の早期社会復帰を支えることに心血を注いでおります。これらの経験を通じて培った「最先端医療を安全に提供する」という姿勢を、今後は診療部長という立場から、病院全体の診療の質向上に活かしていく所存です。

現在はがんセンターの運営にも携わり、質の高いがん医療の提供に努めるとともに、毎年夏に開催しております「キッズセミナー」の準備を通じ、次世代を担う子どもたちへの啓発活動にも力を注いでおります。子どもたちが医療に触れる機会を作ることは、将来の地域医療を担う人材を育むだけでなく、病院をより身近に感じていただく大切な架け橋であると考えております。

昨今、病院経営を取り巻く環境は一段と厳しさを増しておりますが、こうした時こそ、地域の先生方との「顔の見える連携」が何より重要であると確信しております。単なる紹介・逆紹介の事務的なやり取りに留まらず、治療方針の共有や密な情報交換を通じて、地域の先生方と共に一人の患者様を支える「一つのチーム」のような連携体制を築くことが私の理想です。診療部長という重責を担うにあたり、これまで以上に地域の皆様、そして共に働く当院職員のために、持続可能で質の高い医療体制の構築に全力を尽くす所存です。

甚だ微力ではございますが、立川病院のさらなる発展と地域医療の充実、そして先生方との強固な信頼関係の構築に努めてまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

立川病院との医療連携について



昭島市医師会
会長
浅見 健太郎

令和7年6月に、立川市に隣接する昭島市の医師会長に就任しました浅見健太郎と申します。昭島市は人口116,020人（2026年3月現在、人口微増中）、医師会会員は46名（A会員）。市内病院をはじめ会員一同頑張っていますが、それだけではまかないきれない医療、包括ケアシステムの構築などにおいて、立川病院との医療連携はととても有り難いことだと常日頃感謝しております。

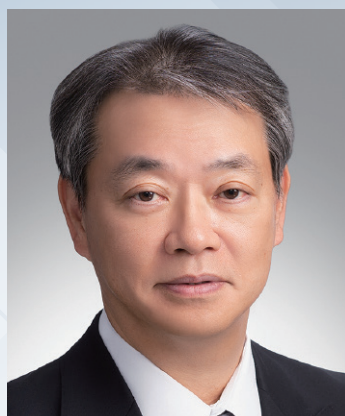
立川病院は圏域の基幹病院として長年に亘り地域医療を支え、今日では、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、東京都災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、東京都認知症疾患医療センター、周産期連携病院など、私の知る限りでも枚挙に暇がないほど多くの役割を担ってくださっています。

ホームページを拝見すると、ミッションとして「地域の皆様が住み慣れた地域で安心して最新かつ適切な医療を受けることができるよう、身近な総合病院として医療の質の向上に努める」とありますが「身近な総合病院」の文言を嬉しく思います。片井院長の「あらゆる病と出産に対応できる専門知識と技能をもった医療スタッフがそろった総合病院です。赤ちゃんからお年寄りまで是非、安心して受診してください」の言葉にも優しさを感じます。高度医療も提供する一方で、地域医療と優しさを忘れない、そのような病院が隣市にあることは、昭島市民にとっても昭島市医師会会員にとっても大変心強いものです。余談ですが私も約64年前に立川病院の産科病棟で産声をあげております（兄弟も皆立川病院生まれです）。

しかしながら、我々医師会員はそれに甘えてばかりではいけません。かかりつけ医としての研鑽を怠らず、知識と技量を磨いてゆく所存です。その一助にもなっているのが紹介患者さんに関して頂くお返事（情報提供書）です。専門的診療がどう行われているのかがわかり、居ながらにして知識のアップデートとなっております。一方で情報提供書作成にかかる労力と自己犠牲を思うと大変恐縮でもあります。

最後になりますが、昨今お上の主催する医療の機能分化に関する会議に参加して思うことを書かせてください。病院と診療所の機能分化は当然としても、病院間での機能分化は（高度医療は別として）曖昧が良いのではと思います。「しなくてもよい」「しても報われない」ことはやがてしなくなりできなくなる。医療機関としては投資をしなくなりできなくなる。スタッフも研鑽が疎かになりやがてその医療行為ができなくなる。病気や医療行為はどの段階でも常にオーバーラップしているのに。実際の医療は中小病院がそのオーバーラップ部分を担っているのに。感想は言えても提言できない自分を責める今日この頃です。

立川病院との医療連携について



武蔵村山市医師会
会長
田中 大晴

昨年7月より、武蔵村山市医師会の会長を拝命いたしました田中大晴です。このたびは、立川病院の皆様には、会長就任のご報告とご挨拶を申し上げます。

立川病院の皆様には、日頃より地域医療の最前線において多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。感染症対策、高齢化の進行、医療ニーズの多様化など、医療を取り巻く環境は年々大きく変化しております。そのような中で、立川病院が果たしてこられた役割は非常に大きく、高度な専門性と質の高い医療提供は、地域住民にとって欠かすことのできない存在であると強く感じております。

私ども武蔵村山市医師会は、昨年、法人格取得50周年という大きな節目を迎えました。7万人強の人口の市に診療所19、病院3、老人保健施設1、正会員23名準会員を含めても40名程の小規模な医師会ではありますが、これまで長きにわたり活動を継続してこられたのは、立川病院をはじめとする周辺医療機関の皆様のご支援とご協力があったこそと、深く感謝しております。

今後は、これまで以上に医療機関同士の連携を強化し、地域全体で患者さんを支え「人生最後まで地域で過ごす」体制づくりを進めていきたいと考えております。特に、在宅医療や予防医療の推進は、今後の地域医療において重要な柱となります。医師会としても、診療所と病院、行政、介護・福祉分野との橋渡し役を担い、切れ目のない医療提供体制の構築に尽力してまいります。

現在不安定な世界情勢の中地域医療の未来には多くの課題があります。医師会会長としての責任の重さを自覚しつつ、皆様とともに地域医療が抱える課題に真摯に向き合い、医療の質のさらなる向上を目指して努力を重ねていく所存です。今後とも、立川病院の皆様には変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

立川病院との連携について



国分寺市医師会
会長
奥山 尚

国分寺市医師会会長の奥山尚と申します。

国分寺市は、令和8年2月現在、人口：130,069人、世帯数：65,340で高齢化率は22.1%となっています。その中で、我々の医師会は昭和49年4月に法人格を取得し、一昨年50周年を迎えたところです。現在はA会員：94名、B会員：42名の計136名、93の医療機関で構成されています。また、国分寺市は立川市に隣接しており、その中でも東寄りにある立川病院には、近隣の高度先進医療や救急医療が受けられる病院として、日頃から多数の患者さんを紹介、受診させていただいており、国分寺市民ならびに当医師会会員が大変お世話になっております。心より感謝申し上げます。

平成24年4月からは基幹型の認知症疾患医療センターとして機能しておられ、患者さんの診断・治療に加え、家族支援についても強力なお力添えをいただいております。我々医師会会員に向けても、各種勉強会などを開催していただき、地域の認知症診療の向上にも寄与いただいております。令和8年度からは、国分寺市でも認知症検診の実施が予定されており、精密検査実施機関等として、これまで以上にお世話になることと存じます。また、平成29年7月に新病院をオープンされ、同時に災害拠点病院の指定を受けられておられ、いざという時にも頼りになる病院が近くにあるということで、大変心強く思っているところです。さらに、近年は外来予約センターへの電話で、MRI・CTなどの各種画像検査の予約ができるなど、利便性を高めていただき、日頃の診療のサポートをいただいております。

近隣市の医師会として、国分寺市医師会といたしましては、今後さらに病診連携を強固なものとして深化させ、国分寺市民のみならず地域の方々の健康の維持増進に寄与できればと考えております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

新任ドクター紹介

産婦人科 医長

中村 加奈子 医師

- ①婦人科悪性腫瘍手術、骨盤臓器脱、若手教育などを主に行っております。特に、ロボット手術、腹腔鏡手術などに力を入れています。
- ②産婦人科領域では、女性の先生に手術をして欲しいという患者さんが沢山います。他院では開腹手術と言われた患者さんも、可能な限り低侵襲手術を行なうように心がけています。手術になる方、ならない方含めて、お気軽にまずはご相談ください。

循環器内科

矢野 修平 医師

- ①循環器内科一般、不整脈
- ②主に不整脈の診療を行ってまいりました。いつでもご紹介下さい。

循環器内科

成田 理貴 医師

- ①循環器内科
- ②精一杯頑張ります。よろしくお願いたします。

呼吸器内科

高岡 初誉 医師

- ①呼吸器内科・肺癌
- ②地域の医療に貢献できるように、精一杯努力いたします。

呼吸器内科

吉羽 友美恵 医師

- ①呼吸器内科
- ②立川のみなさまに信頼していただけるよう努めます。

呼吸器内科

石村 舞花 医師

- ①呼吸器内科
- ②呼吸器全般、早期診断・治療に努めます。

呼吸器内科

竹内 哲郎 医師

- ①呼吸器内科
- ②丁寧な診療を心がけていきます。

消化器内科

小田 響子 医師

- ①消化器内科
- ②地域に貢献できるように頑張ります。どうぞよろしくお願いたします。

消化器内科

木村 弘明 医師

- ①消化器内科（内視鏡治療）
- ②内視鏡がんばります。よろしくお願いたします。

血液内科

武田 直久 医師

- ①血液内科
- ②地域を支える医療に貢献してまいります。

新人の先生たちへの質問

- ①専門分野または得意とすること、進みたい方向
- ②地域の先生、患者さん、ご家族へのPR

血液内科

宮木 陽輔 医師

- ①血液内科、内科救急
- ②成田、川崎での経験を活かして頑張ります。

腎臓内科

小野田 怜依 医師

- ①腎臓内科
- ②短い期間となりますが、地域の医療に貢献できるよう精進してまいります。

一般内科

吉田 有希 医師

- ①総合内科
- ②学生のと時から多摩地域の皆様に育てていただいたので恩返しをしたいと思います。

一般内科

赤嶺 諒多 医師

- ①腎臓内科を専攻しております。今後は立川病院での診察を通じて、腎疾患および内科一般の全身管理における専門性をより一層深め、地域医療の質の向上に貢献できればと考えております。
- ②丁寧な診療と迅速な報告を心がけます。

一般内科

尾上 智哉 医師

- ①循環器内科 目指しています。
- ②一生懸命頑張っていきます。

一般内科

川崎 晃太郎 医師

- ①内科専攻医（消化器内科志望）
- ②若輩者ですが、誠心誠意努めてまいります。よろしくお願いいたします。

一般内科

渡邊 佐喜子 医師

- ①消化器内科・内視鏡治療
- ②地域の方々が健康に幸せに暮らせるよう迅速丁寧に診療いたします。

整形外科

井原 諒 医師

- ①一般整形外科・外傷
- ②よろしくお願いいたします。

形成外科

吉田 沙矢 医師

- ①形成外科
- ②誠意をもって診療してまいります。よろしくお願いいたします。

眼科

角田 麻理 医師

- ①角膜（主に感染、ドライアイなど）、ぶどう膜炎
- ②該当する患者様がいらっしゃいましたらご紹介いたしますと幸いです。

新任ドクター紹介

眼科

秋富 ひとみ 医師

- ①小児眼科に進みたいと思っています。
- ②学びを地域に還元できるよう努力してまいります。

産婦人科

玉川 真澄 医師

- ①産婦人科 胎児エコーが好きです。
- ②今後地域医療に尽力いたします。立川病院の無痛分娩チームの一員となって、一緒に頑張ります、何卒よろしくお願いいたします。

精神神経科

沈 平成 医師

- ①救急科、精神科
- ②地域の先生方のお力に少しでもなれるように頑張ります。

精神神経科

八木 詩織 医師

- ①精神神経科分野
- ②まだまだ未熟ですが、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

菅家 由美子 医師

- ①耳鼻咽喉科・頭頸部外科（専攻医1年目）
- ②誠心誠意、取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

泌尿器科

本郷 周 医師

- ①前立腺癌
- ②泌尿器科の専門性を生かし丁寧な診療を行います。

泌尿器科

西元 ゆい 医師

- ①泌尿器科一般
- ②泌尿器科に従事します。地域連携にてお力添え賜れますと幸いです。

歯科口腔外科

阪口 友梨 歯科医師

- ①歯科・口腔外科
- ②地域医療に貢献できるよう尽力してまいります。

麻酔科

小竹 良文 医師

- ①周術期管理、集中治療
- ②合併症の少ない周術期管理が目標です。

麻酔科

岩田 有紀 医師

- ①一般麻酔
- ②麻酔科医として日々精進して頑張ります。よろしくお願いいたします。

新人の先生たちへの質問

- ①専門分野または得意とすること、進みたい方向
- ②地域の先生、患者さん、ご家族へのPR

麻酔科

古田 和睦

医師

- ①手術麻酔
- ②地域の皆様が安心して手術を受けられるような麻酔を目指します。



ホームページに専門医検索機能「専門医ファイル」を追加しました

当院には各診療科、総勢80名を超える専門医が在籍しています。

新機能の「専門医ファイル」では任意のキーワードを入力する「キーワード検索」の他、「医師氏名」、「症状」、「疾患の部位」、「診療科」から条件に該当する専門医を検索することが可能です。

検索結果には医師氏名、専門医資格の基本情報の他、担当する疾患、よく相談される症状、各医師からのコメント、執筆コラムが表示される仕組みとなっています。

連携医の先生方より当院宛に患者さんをご紹介いただく際の参考ツールとしてご活用ください。

トップページ左側のバナーや下記のQRコードからご利用ください。

【立川病院専門医ファイル】

https://tachikawa-hosp.kkr.or.jp/certified_doctor/index.html

【立川病院 専門医ファイル QRコード】



2025年度立川病院市民公開講座



10月11日（土） 災害時の役割と対応を知ろう

市民に向けた啓蒙活動の一環として、立川市における市民に向けた災害時の役割と災害拠点病院である立川病院の役割を市民へ伝え、災害時の不安や混乱を少しでも軽減することを目的として、立川市防災課と協賛し開催しました。

14:00～「立川市の役割」
立川市 危機管理対策室 防災課課長 轟 誠悟

14:30～「災害拠点病院とは？立川病院の役割」
立川病院副院長 防火・防災対策委員会委員長 森谷和徳

（体験ブース）駐車場スペースにて 14:00～16:00
起震車体験 火災発生時の避難方法は？
煙体験ハウス 地震でどんな感じ？

*ご協力：立川消防署、立川市
*体験ブースは雨天・荒天時、中止の場合あり

〈参加者からの声〉

* 大災害への対応を市役所の立場・大病院への立場でどのような考えで対応しているのかよく理解できた

* 防災対策で最も大事なことは自助であることが再認識できた



11月27日（木） じんぞう病ってなあに？

70歳以上を中心に60名近い参加がありました。
地域住民の健康意識の高さが伺えました。

市民公開講座＆健康フェア
じんぞう病ってなあに？

誰でもなる可能性があるじんぞう病について学びましょう！
じんぞう病と言われた方、そのご家族、じんぞう病に関心がある方、どなたでも参加できます！

参加希望の方は裏面をご確認ください

2025年
11月27日（木） 14:00-17:00
(13:30受付開始)

会場
立川病院トリアージ研修棟
立川市錦町4丁目2番22号

★主催★
立川病院 地域医療連携センター
立川病院 看護部 ワンズナース会

11月27日（木）
立川病院
外来患者駐車場内 トリアージ棟
13:30 受付開始
14:00 開演 立川病院スタッフより

- 慢性じんぞう病とは
- じんぞうにやさしい日常生活
- じんぞうのための薬
- じんぞう病と運動
- 透析になったら医療費は？
- 塩分をおさえた食事

16:00-17:00
参加自由！
備し/情報提供コーナー

★血圧測定、血圧手帳配布
★もしばなゲーム
★手洗いチェック
★展示コーナー
オムツ・スキンケア用品・
糖尿病、認知症、感染関連など

問合せ・申込み先
国家公務員共済組合連合会
立川病院
地域医療センター
TEL 042-524-4439
平日 9:00-17:00

お電話または、
2次元コードから
申し込みできます！

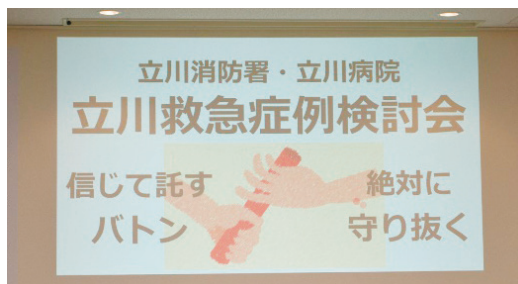
〈参加者からの声〉

- * 日常生活に役に立つ内容で参考になった
- * 腎臓病やeGFRについて新しい知識が得られた
- * 減塩弁当の試食や案内地図がほしい



➤次回ののお知らせ 2026年4月22日（水）14時～15時
テーマ：下肢静脈瘤セミナー 下肢静脈瘤とは

立川消防署との救急症例検討会を開催しました



2025年11月8日、立川消防署の皆さまと、コロナ禍以降では久しぶりとなる救急症例検討会を開催しました。当日は救急救命士30名、立川病院職員80名以上が参加し、会場は活気に満ちていました。

今回の検討会では循環器内科疾患をテーマに、救急救命士が現場でどのように判断するか、病院到着後、医師がどのように診断・治療を進めるかという双方の視点から、「この状況ならどう考えるか」をディスカッション形式で深めました。

現場での観察ポイントや搬送時の判断、病院での初期対応などについて、立場を越えて率直な意見交換が行われました。参加者が積極的に議論に参加し、非常に有意義な時間となりました。



今回の検討会は、消防と医療機関が共通認識を持ち、より質の高い救急医療を提供するための大切な機会となりました。

今後も継続的な連携を通じて、地域の皆さまの安全と健康を守る体制づくりに取り組んでまいります。

また、症例検討会後は、救急救命士さんたちとの立食形式での交流会を行い、交流を深めることができました。来年度は脳神経疾患の症例検討会を行う予定です。

第2回立川市訪問看護ステーション交流会を開催しました

2026年2月5日、「第2回 立川市訪問看護ステーション交流会」を開催しました。

市内の訪問看護ステーションから18施設・30名の皆さまにご参加いただき、立川病院職員と合わせて約80名が集まりました。

今回は、立川病院看護師による訪問看護ステーション実習の報告から始まり、8つのテーブルに分かれてお弁当を囲みながら交流を深めました。途中には席替えタイムも設け、多くの方々と直接話すことで、より一層「顔の見える連携」につながりました。

地域で支える医療のため、今後もこの交流会を継続していきたいと考えています。





ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和8年5月1日（年3回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<https://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160